

1 研究の概要

(1) 研究主題

漢文を読む能力の基本を育成する教科横断的な学習指導の在り方
ー 古典Bにおける漢文・英語・日本語の語順を比較する活動を通してー

(2) 研究主題設定の理由

高等学校学習指導要領解説国語編の古典Bの目標には「古典としての古文と漢文を読む能力を養う」⁽¹⁾とあり、これが、内容(1)アの「古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること」⁽²⁾との記述につながっています。関連して、言語活動例(2)(ア)には「辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉を比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること」⁽³⁾とあります。さらに、高等学校学習指導要領解説国語編では、上述の内容(1)(ア)について、『「古典に用いられている語句の意味、用法」を理解することは、古典を読むことの出発点であるとともに、国語についての意識を高め、言語感覚を養う基本でもある」⁽⁴⁾と述べられています。

これまでの自己の実践を振り返ると、模擬試験のデータや同僚の意見から生徒の傾向として次の3点が指摘できます。1点目は、語順を中心とした漢文の「文の構造」を理解できていない生徒が多いということです。2点目は、漢文の「文の構造」が理解できていない生徒は模擬試験において漢文全体の成績も振るわないということです。3点目は、「文の構造」を問う語順問題は、学力中位層と上位層の差がはっきりと出る、つまり弁別性の高い問題であるということです。この3点の傾向が発生する理由は、漢文の「文の構造」がもつ特徴にあります。この「文の構造」は、中国語や英語に共通して見られるもので、日本語には存在しない特徴なのです。

そこで本研究では、漢文・英語・日本語の3種類の使役表現を比較する活動を行うことにより、漢文の「文の構造」を理解させ、漢文を読む能力の基本を養う学習指導の在り方を探ることとしました。そうすることで、言語文化や歴史的背景を踏まえた上で漢文の「文の構造」を理解し、漢文を読む能力の基本を身に付けた生徒を育成できるのではないかと考えました。

以上のことから、本研究主題を設定しました。

(3) 研究の目標

古典Bの漢文分野において、漢文・英語・日本語の3種類の使役構文を比較する活動を行うことにより、「文の構造」を理解させ、漢文を読む能力の基本を養う教科横断的な学習指導の在り方を探る。

(4) 研究方法

- ア 漢文の語順についての理論研究
- イ 漢文・英語・日本語の使役表現を比較するワークシートの作成
- ウ 授業実践及び検証

《引用文献》

- | | | | | |
|-----|-------|-------------------|---------|------|
| (1) | 文部科学省 | 『高等学校学習指導要領解説国語編』 | 平成22年6月 | p.72 |
| (2) | 文部科学省 | 『高等学校学習指導要領解説国語編』 | 平成22年6月 | p.73 |
| (3) | 文部科学省 | 『高等学校学習指導要領解説国語編』 | 平成22年6月 | p.75 |
| (4) | 文部科学省 | 『高等学校学習指導要領解説国語編』 | 平成22年6月 | p.73 |